

## 2 確かな学力の育成

複雑で変化の激しい現代社会に子どもたちが主体的に関わり、よりよい社会を創造していくためには、一人ひとりが基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら課題を見付け、他者との協働的な学習を通して主体的によりよく問題を解決する力を身に付けることが大切です。

そのためには、学習に向かう子どもの思いや願いに応え、教師の働きかけを工夫することやICTを活用して自ら学びを進める力を育成することなどを通して、「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業を構築することが重要です。また、多様な考え方を受け入れ、様々な人々と協働して社会を創ろうとする態度をはぐくむためには、各教科等において様々な文化や価値観、生き方にふれ、思いや考えを伝え合う機会の充実を図ることが大切です。

### 2-1 学習指導の充実    2-2 ICTを活用した教育の推進    2-3 グローバル化に対応した教育の推進

#### 2-1 学習指導の充実

##### 目指す授業のイメージ

「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業

子どもたちが自らの目標の達成に向けて、安心して学習に取り組むとともに、自信を持って思いや考えを表現したり、互いのよさを生かして学びをつくり上げたりすることができるよう、生徒指導の機能を生かした授業を構築することが大切です。その上で、子どもが課題解決の喜びを実感するとともに、主体的に学び続ける意欲を高めることができるよう、子どもの思いや願いに応じた授業改善を図ることが重要です。

##### ■確かな学びの基盤として ～生徒指導の機能を生かした授業～

	<input type="checkbox"/> 自己決定の場を設定する	<input type="checkbox"/> 自己存在感を持たせる	<input type="checkbox"/> 共感的な人間関係を育成する
導入の場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味や関心を持ち、自ら学びに向かうことができるよう、資料や教材提示の仕方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の振り返りを活用するなど、一人ひとりの学習の成果が本時の学習に結び付いていることを実感できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの疑問を取り上げるなど、共に課題解決に取り組む必要感が生まれるような学習課題を設定する。</li> </ul>
深める場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決のための思考などの場面において、自分の考えを持つことができるよう、視点を示し、発問を工夫する。</li> <li>○課題に対して学習方法や表現方法を選択する場面を設定したり、個で考える時間を十分に保障したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の考えのよさについて具体的に取り上げ、価値付ける。</li> <li>○友達の考えのよさを見付ける場面を設定する。</li> <li>○一人ひとりの学習状況を見取り、つまずきに対して適切な支援を行う。</li> <li>○つぶやきや誤答など、子どもの反応を大切にす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達の意見を最後まで聞くなど、学習の約束を大切に、誰もが自信を持って意見を述べるようにする。</li> <li>○互いの考えを生かして、よりよい考えを導き出すなど、集団で学ぶことのよさを実感できるようにする。</li> </ul>
振り返りの場面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りの視点を具体的に示すことで、学びの成果を実感したり、新たな課題に気付いたりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども一人ひとりの成長を認めたり、取組の姿勢を称揚したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの振り返りを意図的に取り上げ価値付けることで、互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができるようにする。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 安全・安心な学びの環境をつくる			
<ul style="list-style-type: none"> <li>○礼儀正しい言葉づかいや、話したり聞いたりするときの態度などに配慮し、安心して学習することができるようにする。</li> </ul>			

## ■ 「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業へのアプローチ

子どもたちが課題を解決したときの達成感や学んだことの意義を実感でき、主体的に学び続ける意欲を高めることができるよう、課題解決の方法や表現方法を選択する場を設定するなど、授業での子どもの思いや願いに応え、教師の働きかけを工夫することが重要です。

### <子どもの思いや願い>

- なぜだろう、不思議だな
- 気になっていることを解決したい
- 課題を解決するためには、どのような方法があるだろうか
- 自分と同じ考えの人と話してみたい
- もっと詳しく調べたい
- 自分の考えを聞いてほしい
- 同じ考えだけれど、どんな理由からだろう
- 自分の考えと違うけれど、どういうことだろう
- 分かりやすく説明できるように考えをまとめよう
- 様々な意見を聞いて、考えが深まった
- 分かったこと、できるようになったことがうれしい
- どうすればもっとうまくできるだろうか
- 次の時間ももう少し考えてみたい

### <教師の働きかけの例>

- 資料の提示を工夫するなど、単元や題材の導入を工夫し、子どもの興味や関心を高める。
- 子どもの疑問を取り上げ、ねらいに迫ることができるめあてや学習課題を設定する。
- 日常生活や既習内容との比較、関連付けをしながら、解決の見通しを持つ場を設定する。
- 図書資料やICT等、多様な方法から情報を集めたり、考えを整理したりするなど、学習の進め方を選択できるようにする。
- 課題の解決に向けて、図書資料やICT等を活用して個で調べたり、友達と意見を交流したりする時間を保障する。
- 子どもの学習状況に応じて、考えを明確にするための助言や、解決に必要なヒントの提示をする。
- 考えの根拠を引き出す問い返しや思考を深める発問を工夫する。
- ICTを活用して考えをまとめるなど、表現方法や発表方法を選択する機会を設定する。
- 子どもが学びを振り返ることができるよう、板書を工夫し、学習の過程を可視化する。
- 学習の過程を振り返り、互いの考えのよさを認め合う場面を設定するとともに、子どもの変容を価値付ける言葉がけをする。
- 子どもの記述や発表から、既習内容や他教科との関連を取り上げたり、学んだことの有用性を実感できる場面を紹介したりする。

### 「もっと学びたい」の高まりが、さらに学びを豊かにします

- 自ら課題を解決する過程で、新たに生じた疑問などについて課題意識を持っている。
- 学習したことや経験したことをもとに、まとめ方や発表の仕方を自分で選び、工夫して表現しようとしている。
- 自分の考えの広がりや深まりに気づき、多様な教材を活用することや友達と学び合うことのよさを実感している。
- 自分に合った学習の進め方を見だし、次の学習に生かそうとしている。



## 2-2 ICTを活用した教育の推進

子どもたちの学びをより豊かで広がりや深まりのあるものにするためには、課題解決の方法を子ども自身で決めたり、新たな課題を発見したりするなど、自ら学びを進めることができるよう、各教科等の学習でICTを積極的に活用して、適切に情報を選択する力や情報を自分の発想と組み合わせる新しいものを生み出す力を身に付けさせることが大切です。

また、ICTを日常的に活用できるよう、全教職員でタブレット端末等の活用方法について共通理解を図ったり、スキルの向上に努めたりすることが必要です。

### ■各教科等の学びを深めるために

<学習場面に応じた取組例>

#### 個々の意見や考えを全体やグループで共有する

- ・話し合いの内容を整理するときは、協働学習支援ツールの付せん機能で意見や考えを共有し、テキストマイニング機能(※)を活用してキーワードにまとめる。
- ・協働学習支援ツールを活用して、教師が子どもの意見や考えをリアルタイムで把握し、タイミングを逃さずに声をかけるなどの支援を行う。

※テキストマイニング機能…複数のテキストデータから共通する単語やフレーズを抽出したり、他の言葉との相関関係を分析することができる機能



意見を集約したりキーワードにまとめたりする場合、ICTを活用すると、短時間で分かりやすく示すことができます。また、教師が即時に多くの情報を把握することができ、一人ひとりに応じた適切な支援を行うことができます。

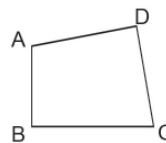
#### 複数の教具を活用する

「小学校6年算数：図形の拡大と縮小」

～四角形の拡大図の書き方を考える学習～

- ・紙またはデジタルデータのワークシートを、子どもが自分で選択し使えるようにする。
- ・子どもが書き込んだワークシートは撮影してデジタルデータ化し、タブレット端末上で多くの考え方を比較できるようにする。
- ・子どもが説明する際は、大型提示装置を利用し、思考の流れを全体で共有できるようにする。

2倍の拡大図の書き方を考えよう



【ワークシートの例】



学習のねらいや目的に合わせて、複数の教具を準備することで、子どもが、自分の考えを書き表したり、伝えたりするのにふさわしい方法を選ぶことができます。

## 自分で学び方を決めて探究する

### 「中学校2年理科：天気の変化」

～既習の事項などを活用し天気予報を行う学習～

- ・子どもたちが自分で考えた方法で、課題解決を進める。グループでの学び合いを通して、自分の学習の方法や進め方を修正しながら、予想天気図を完成させる。

#### ○学習の進め方について学び合う場面

西から東に天気は移り変わるので、天気図を東に動かして書いてみたけれど、どのくらい動かせばよいのか分かりません。何かよい方法はないでしょうか。

気象庁のサイトを調べたら、3時間ごとの天気図をたくさん見付けたから、これを使えば低気圧の速さが計算できるかもしれませんね。



低気圧や高気圧がどのくらいの速さで移動するのかをインターネットで調べたけれど、はっきりしませんでした。

みんなの調べたことを参考にしたいです。

私は図書室で天気予報の本を探していたら、天気に関する用語をまとめた本を見付けたので、必要なときは声をかけてください。



課題の解決方法について、子ども一人ひとりが選択することで、主体的に追究することができます。また、課題解決の過程で情報を共有したり、学び合ったりすることで追究の仕方を修正・改善することができます。

## ■ICTの日常的な活用のために

### □学びを支える力をはぐくむ取組

- ・小学校低学年からキーボードによる文字入力やインターネットでの検索方法等を練習する機会を設けるなど、子どものスキル向上を計画的に進める。
- ・情報モラルやインターネットの適切な情報発信について学ぶ機会の充実を図るなど、子どもが自ら判断し安全にICTを活用することができるようにする。

### □教職員のICT活用を推進する取組

- ・日常的に授業を見合う機会を設定するなどして、機器の操作方法や効果的な活用方法など、ICT活用のスキル向上に努める。
- ・ICTの活用記録を蓄積し、効果的な活用のあり方について校内で共有する。
- ・円滑にICTを活用することができるよう、各種設定やトラブルへの対応について、ICT支援員と連携して対応する。
- ・子どもが小中9年間で段階的にスキルを身に付けることができるよう、小・中学校が連携して研修会や連絡協議会を開催し、共通理解を図る。



## 2-3 グローバル化に対応した教育の推進

多様な考え方を受け入れ、他者と協働してよりよい社会を創造しようとする態度をはぐくむためには、自国の伝統や文化についての理解を深め、様々な文化や価値観にふれる機会の充実を図るとともに、広い視野で物事をとらえ、課題を探究するための学習活動を推進することが大切です。

また、世界の人々と思いを伝え合うことができるよう、コミュニケーション能力を高める英語教育の充実を図ることが重要です。

### ■様々な文化や価値観、生き方にふれる機会の充実

- 地域の人々や専門家の協力を得ながら、日本やふるさとの伝統、文化等にふれ、よさを見つめ直す学習活動の充実を図る。
- 様々な国や地域の出身の方たちなど、異なる文化的背景を持つ人々の考え方や生き方にふれ、多様な価値観を知り、尊重する態度をはぐくむ。
- ICTを活用し、様々な伝統や文化について情報を収集したり、オンラインで他の地域や他国の人々と交流したりする機会を設ける。

### ■広い視野で物事をとらえ、課題を探究する学習活動の推進

- 各教科等における学習活動の中で、教科横断的な視点で物事をとらえたり、新しいものの見方や考え方に気付いたりすることができる機会を設定する。
- 世界が直面している様々な出来事を身近な生活や社会と結び付けて考えることを通して、課題を見付け、解決に向けて自分ができることに主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

### ■コミュニケーション能力を高める英語教育の充実

- 外国語活動、外国語（英語）科の授業における言語活動を通して、自分の思いが相手に伝わる喜びや相手の気持ちや考えを理解する喜びを感じられるよう、他者とのやり取りを大切に授業を構築する。（→P 49 外国語（英語）科、P 53 小学校外国語（英語）活動参照）
- 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能等を身に付けることができるよう、ALTと共に活動する場面を増やすなど、英語にふれる機会の拡充を図る。
- 小学校外国語活動・外国語科と中学校外国語科の学びの系統性を踏まえた指導の充実を図る。

### 異なる文化や英語にふれる機会の充実～イングリッシュスクール～

#### < 取組例① for students >

- ・複数のALTを自校に招き、異文化にふれる活動を実施した。
- ・全校児童が異学年交流のグループとなり、クイズやものづくりを通して各国の文化や習慣について学んだ。



#### < 取組例② for teachers >

- ・複数のALTを講師として自校に招き、教職員研修会を実施した。
- ・外国語活動、外国語科の授業で役立つクラスルームイングリッシュを学ぶとともに、英語を使ったアクティビティを体験した。



※イングリッシュ・スクールは申込みを随時受け付けています。

#### < English Data Box >

- ・小・中学校で活用できる学年や単元ごとのワークシートやプレゼン資料の提供も行っております。

00\_学校間共有→54\_外国語・外国語活動部会→English Data Box